

教員活動状況報告書

提出日：令和 6年 2月 28日

所 属：生命・環境科学部 臨床検査技術学科

氏 名：本田 晃子 職位：教授

I ティーチング・ポートフォリオ

1. 教育の責任（教育活動の範囲）

臨床検査技術学科の専門科目では、国家試験に合格するという入学時からの学生の目標を叶えるために、国家試験合格に繋がる基礎的な知識が習得できるような教育を心がけています。卒業論文においては社会に出てから役立つ、実験手技の取得、自ら学習する能力、問題解決能力、責任感、協調性やプレゼンテーション能力を修得できるように指導しています。

科目名	学科・専攻	必, 選, 自	配当年次	受講者数
臨床血液学Ⅰ	臨床検査技術学科	必須	2年次	87名
臨床血液学Ⅱ	臨床検査技術学科	必須	3年次	77名
臨床血液学実習	臨床検査技術学科	必須	3年次	77名
総合臨床検査学Ⅲ	臨床検査技術学科	選択	4年次	81名
総合臨床検査学演習	臨床検査技術学科	選択	4年次	78名
基礎化学実験	臨床検査技術学科	必須	1年次	119名
卒業論文	臨床検査技術学科	選択	2～4年次	16名
生体防御学特論	環境保健学専攻	選択	1年次	2名

2. 教育の理念（育てたい学生像, あり方, 信念）

臨床検査技術学科は臨床検査技師を養成する学科であるため、医療に貢献できる人材の育成を教育の理念としています。そこで、医療現場で求められる基礎的知識および基本的な検査手技の取得に加え、検査をより深く理解し、疾患と検査結果の関係を考察できる学生の育成に努めています。さらに、社会に出てから役立つ問題解決能力、責任感、日々進歩する医学や医療を自ら主体的に学習する能力、そしてチーム医療で必要とされる協調性、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を取得できるよう指導しています。

3. 教育の方法（理念を実現するための考え方, 方法）

国家試験出題科目の講義では、毎回小テストを実施し、小テスト直後に解説を行っています。小テストで良い点数を取るためには、授業を集中して聞く必要があるため、集中力が身につきます。また、小テストで出題された箇所は重要ポイントであることが認識できます。

さらに、小テスト直後の解説で講義内容の理解を深め、正しい答えを講義当日に記憶することができます。そのような教育的な取組を継続的に行うことで、基礎的な知識の定着、国家試験合格に繋がるような学力の向上を目指しています。学年全員の小テストの結果（点数別人数の割合）は、次週の講義冒頭でグラフ化し公表することで、各自の学年での成績順位が把握できるようにし、勉学意欲が向上するような取組を行っています。実習では、手技の取得を目標のひとつとしているため、手を動かす人が特定することがないように、可能な限り全員が実習を体験し、手技を取得することができるように、器具および試薬の確保に努めています。実習で得られたデータには必ず考察を加えたレポートを作成することを課題とし、実習の原理・方法・基準範囲を理解した上で、検査結果と疾患との関係を考察するよう指導しています。また、実習初回のオリエンテーションでは、実習中の反応時間などを利用したレポート作成も可能であることを説明し、学生の主体性を伸ばし、実習時間の有効活用ができるような取組を継続して行っています。卒業論文においては、グループでの活動や合同の勉強会を通して、社会に出てからも役立つ責任感、協調性、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を取得できるような取組を行っています。

アクティブラーニングについての取組

新型コロナウイルス感染症対策として、学生同士が密になる対面でのグループ実習は控えています。今年度、新型コロナウイルス感染症は5類に移行しましたので、グループ実習を再開したいと考えています。

ICTの教育への活用

実習では、手技を撮影した動画を利用した視覚教育を一部で取り入れています。引き続き、より理解しやすい教材の提供に努めていきます。

4. 教育方法の改善の取組（授業改善の活動）

①教育（授業，実習）の創意工夫（B）

②学生の理解度の把握（A）

③学生の自学自習を促すための工夫（B）

④学生とのコミュニケーション（質問への対応等）（A）

⑤双方向授業への工夫（B）

※A（十分実施している） B（実施しているが十分でない） C（うまく取り組めていない）

⑥国家試験対策としてどのような取組をしましたか。

国家試験出題範囲の講義では、早期（2年次）より、授業時間内に国家試験類似問題の小テストを実施し、近年の国家試験問題の傾向を把握できるような取組を行っています。また、小テスト直後に解説を行うことで、基礎的な知識の定着を図っています。

4年次の国家試験対策授業の校内試験問題および模擬試験問題の正答率を分析した結果、在校生が苦手とする項目の重点的な講義は、国家試験対策になると感じています。そこで、国家試験対策授業（総合臨床検査学Ⅲ、総合臨床検査学演習）では、近年の国家試験問題および模擬試験問題の在校生の正答率を確認した上で、出題頻度が高い項目や在校生が苦手としている項目については講義で説明を追加しています。講義では、学生に、項目別にまとめた練習問題および要点をまとめた資料を配布し、選択肢毎にどの部分が誤りであるのか、正しい答は何かについて丁寧に解説することで、学生の理解が深まるような工夫をしています。

5. 学生授業評価

① 授業評価の結果をどのように授業に反映させましたか。

学生から好評であった配布資料やパワーポイントについては、近年の国家試験問題の傾向を踏まえ継続しました。

② ①の結果はどうでしたか。

総合臨床検査学演習（国家試験対策授業）の受講生より、「テキストと授業のスライドが見やすかった。」「授業がわかりやすかった。」「講義スタイルは変えないで欲しい。」等の意見がありました。

③ ②を踏まえて次年度はどのように取組めますか。

配布資料は、学生が講義内容を理解する上での一助となるため、今後も継続してより良い資料作りに取組みたいと考えています。小テストおよび小テスト直後の解説は、国家試験出題傾向の把握や基礎的知識の定着に繋がるため、国家試験対策になっていると感じており、今後も継続していく予定です。

6. 学生の学修成果

① 学生の成績向上に資する取組を何か考えていますか。

国家試験出題範囲の講義においては、小テストの実施は自学自習の習慣付けと基礎的知識の取得に役立つと思われるため、国家試験合格を目指す学生の成績向上に資する取組であるとと考えています。

② 教育活動によって得られた学生の成果及び学生・第三者からの評価

今年度の国家試験において、講義で説明した項目の正答率は高いことから、これまで継続して行っている対策は、国家試験合格を目指す学生の成績向上に役立っていると感じています。

7. 指導力向上のための取組（FD研究会参加状況）

今後の教育指導に役立てるため、可能な限り講演会や研修会に出席しました。出席できなかった場合は後日録画を視聴しました。

8. 今後の目標（理念の実現に向かう今後のマイルストーン）

臨床検査技術学科の学生の「国家試験合格」という目標を叶えるために、短期目標として、専門分野の基礎的知識が取得できるような取組を行っていきたいと考えています。

また、社会に出てから役立つ長期目標を達成するために、研究室活動を通して、自ら学習する能力、問題解決能力、プレゼンテーション能力を取得できるような取組を行っていきたいと考えています。

9. 添付資料（根拠資料）（※）資料名のみ

シラバス、配布資料、小テスト、小テスト解説